

目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	落ち着きつつある粉乳相場	p. 2-3
■ バター情報	依然高値を維持	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国産、欧州産ともに軟化傾向	p. 5
■ カゼイン情報	大きな動きは見られないカゼイン相場	p. 5-6
■ 乳糖情報	落ち着きを見せる欧州・米国産相場	p. 6-7
■ チーズ情報	米国の長期的乳価の見込み	p. 7
	米国チーズのメキシコ向け輸出	p. 7
	オーストラリアのチーズ生産量増	p. 7
	アイルランドの酪農家数増加	p. 7
■ 国内情報	猛暑で生乳生産量は大幅減 -脱脂粉乳は依然ひっ迫感が残る-	p. 8-10
■ アムステルダム駐在員情報	Arla Foods 社 ドイツ女子陸上競技のスポンサーに	p. 10
■ メルボルン駐在員情報	MGC 社 工場設備売却の動き	p. 10-12
■ 米国駐在員情報	6月の主要23州生乳生産量	p. 12
	6月の全米生乳生産量	p. 12
	5月の米国産乳製品の輸出量	p. 12-13
	5月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量	p. 13
	6月のチーズとバターの在庫量	p. 13
	米国産乳業メーカー、rBST使用乳禁止の動き拡大	p. 13
	カナダの新乳価クラス7の導入による脱脂粉乳輸出量の増加について	p. 13-14
■ 主要生産国の現行乳価		p. 14
■ 出典		p. 15

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

■ 落ち着きつつある粉乳相場

不安定な動きを見せていた粉乳相場だが、ここへきて落ち着きを見せ始めている。脱脂粉乳については引き続き、オセアニア産と米国産に競争力があり、欧州産が続くという構図である。全粉乳は高値で取引される乳脂肪製品の生産に欧州、オセアニア両供給エリアのサプライヤーが重きを置いているため、供給量としては限られているが、現状価格競争力を有しているのはオセアニア産である。

欧州

欧州の2017年5月の生乳生産量は前月に引き続き、前年と同水準まで回復基調ではあるものの、主要生産国であるドイツ、フランスがそれぞれ2.5%、2.9%減となっており、乳価改訂による酪農家の生産意欲の低下には歯止めが掛かったようだが猛暑と雨不足による天候不順のあおりを受けてこれら主要2ヶ国の生乳生産量の回復は実現できていない。一方で、アイルランドを始め、ポーランド、スペイン、チェコの生乳生産量は好調で主要2ヶ国の減少分をカバーしている。

欧州産脱脂粉乳の相場は横ばい、やや弱含みの動きを見せている。夏季休暇シーズンに差し掛かるにあたって、各需要家ともに直近の必要数量は既に手当をしている模様である。2017年1～5月における欧州産脱脂粉乳の輸出量は前年同時期比、25.9%増の33万8千トン。MENA(中東北アフリカ地域の略称)及び中国からの引き合いが強いことが要因である。

7月の欧州産全粉乳相場は前月と比較すると横ばいで落ち着いた動きを見せていたが、7月下旬に入ってやや強含んだ。ユーロ安による為替要因に加え、欧州の各サプライヤーの全粉乳生産意欲が低いことも相まって現状は価格競争力は有していない。消費先のほとんどがEU域内となっている。

オセアニア

豪州の2017年5月の生乳生産量は前年同月比、2.8%減となった。ニュージーランド(NZ)では南島が大雪による寒波に見舞われたものの、新シーズンには影響はないと見られている。

オセアニア産脱脂粉乳の相場は前月より弱含みとなっている。豪州における2017年1～5月の脱脂粉乳累計輸出量は約6万2千トンと前年同期比、21.0%減となっている。一方で、高値且つ需要の高いクリームの子産物として脱脂粉乳生産は安定しており、価格競争力も有している。7月18日に行われたGDTの脱脂粉乳の平均価格はUSD2,024/MT(本船船側渡し価格)となり、6月20日のUSD2,218/MTと比較すると8.7%減という結果であった。

オセアニア産全粉乳の相場は落ち着いた動きを見せているが、前月と比較するとやや強含んだ。2017年1～5月の豪州産全粉乳の累計輸出量は約2万3千トンとなっており、前年同期比、16.6%減。7月18日に行われた全粉乳GDTの平均価格はUSD3,114/MT(本船船側渡し価格)となり、6月20日のUSD3,022/MTと比較すると3.0%上昇した。

米国

米国の2017年6月の生乳生産量は前年同月比、1.6%増となっており、引き続き堅調な動きを見せているが、米国最大の生乳供給地であるカリフォルニア州は前年同月比、2.1%減となった。オレゴン州、ワシントン州についても3.2%減、1.3%減となっている。背景には太平洋岸北西部の厳寒猛暑という極端な天候不順があるが、中西部及び北東部の生乳生産が好況にあり、米国内の生乳生産量を支えている。

米国産脱脂粉乳の相場は好調な生乳生産もあり、価格競争力を有している。前月は落ち着いていたメキシコからの引き合いも強くなってきている。

今後の見通し

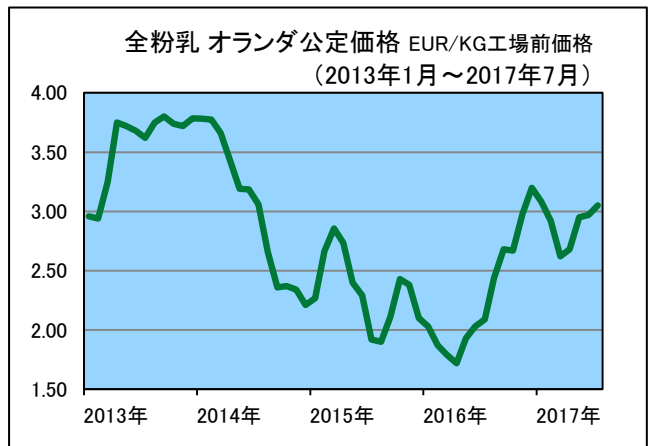
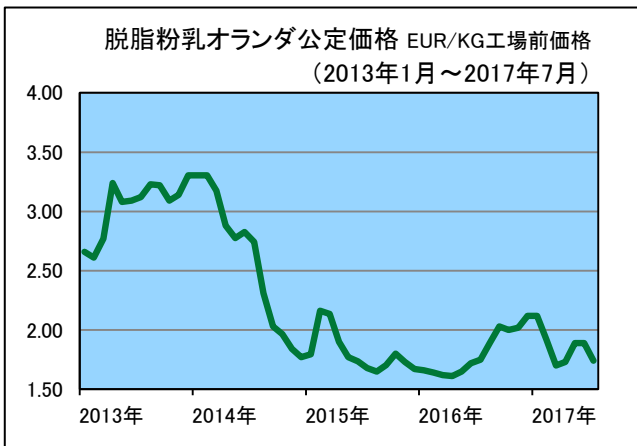
脱脂粉乳に関しては引き続き弱含むことが予想される。オセアニアでは新シーズンが始まり、乳価改訂もあったことから生乳生産量が前年と比較し、上昇することが見込まれる。欧州については天候不順により2017年上半期の生乳生産量は低調に推移していたが、徐々に回復してきている。米国についても生乳生産は好調推移しているが、

猛暑等の天候要因により相場反転の可能性は常にある。また、一部サプライヤーの間ではクリーム・脱脂粉乳のプロダクトミックスよりもチーズ・ホエイの組み合わせの方が高利益を見込めると予想し、製造をシフトする動きもあり、粉乳は不安定な相場に逆戻りする恐れもある。

全粉乳の相場は横ばい若しくはやや強含みが予想されるが、中国の動向次第と考える。2017年6月の中国の全粉乳の輸入量は約4万2千トンで前年同月比57%増と大幅に上昇した。同国の生乳生産量の伸びが鈍いことが理由に挙げられるが、この記録的なペースが継続するようであれば、全粉乳の相場は一気に上昇する可能性が高いと考えられる。

現在の粉乳取引価格

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100- 2,450/MT CFR ASIAN PORTS
欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,700 - 4,000/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 - 2,300/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,300 - 3,600/MT CFR ASIAN PORTS
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 - 2,300/MT CFR ASIAN PORTS



<鷹井>

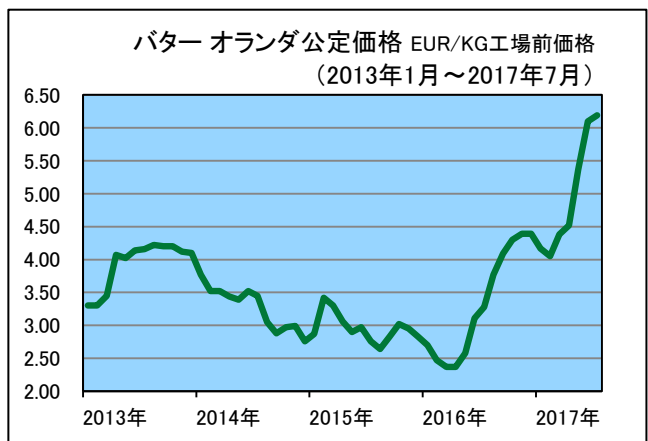
■ バター情報

依然高値を維持

欧州

バターの欧州相場は7月に入り、これまでの大幅上昇は止まったものの、下がる様子が見られず高値を維持したままである。現在のバター価格は EUR7,000/MT に迫る勢いで、一部のサプライヤーは8月には EUR7,000 台を超えるのではないかと予想している。欧州の乳業メーカーの多くがバター・脱脂粉乳のプロダクトミックスよりもチーズ・ホエイの組み合わせの方が利益率が高いと考えているためバターの生産量が減少し、さらなる価格高騰が考えられるからだ。

EU 域内の乳脂肪需要も依然として強く、一部のサプライヤーからは年末までオファー不可の宣言が出るほ



ど需給は逼迫している。

いずれ迎える価格の下落を待ちたい一方で、高値を維持したままであっても、年末需要向けに引き合いが一層集中する秋頃までには、買いそびれの無いような必要な数量の確保を優先するのが良いと思われる。

オセアニア

オセアニアバター相場も依然堅調である。タイトな供給に対し需要は旺盛、という構図は変わっておらず、オファー入手が非常に困難な状況が続いている。新シーズン(2017年7月~2018年6月)は始まったばかりで、各社今シーズンの乳価を前シーズンの最終乳価よりも上げて公表したが、その恩恵が得られるにはまだ時間がかかると思われる。

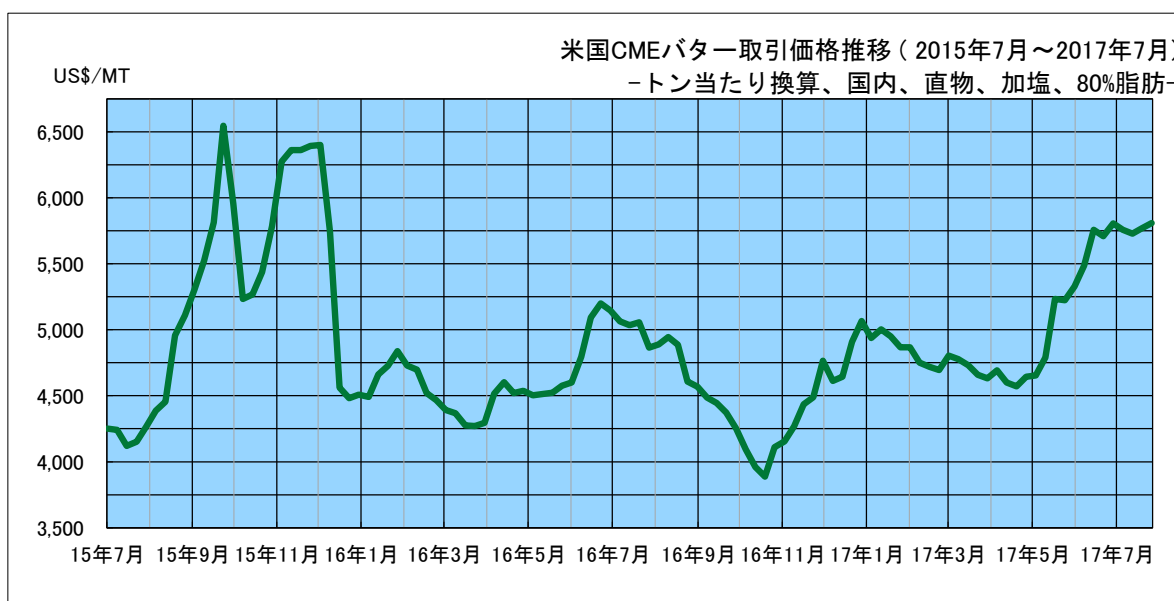
7月のGDTオークションは、AMFとバターで動きが異なった。AMFは1回目(2017年7月4日)の平均価格がUSD6,596/MT FAS(船側渡し)と前回比4.2%下落、2回目(2017年7月18日)のUSD6,577/MT FASで前回比0.3%下落した。バターの平均価格は1回目がUSD5,775/MT FASで前回比0.1%上昇。2回目はUSD6,004/MT FASで4.0%上昇と続伸、遂にバターもUSD6,000台を突破した。

米国

米国バター相場は6月末時点の横ばいからやや上昇した。他主要生産地域のバター価格が上昇したことで米国バターに相対的価格競争力が生じてきているものの、国内需要が強く、輸出に向けるほどの余力を確保することが困難な状況である。

この時期は旺盛なアイスクリーム需要により同製品の供給に乳脂肪が優先され、結果、バターの生産が鈍るといふ例年通りの構図となっているようである。5月のバター生産量は前年同月比-1.5%減の7万4千トンであった。一部では2018年初めまでの契約が済んでおり、それまでは売り切れ状態という声も上がっている。

2017年7月のバター取引価格	(換算レート EUR/USD1.17)
欧州産バター価格	: USD7,900~USD8,200/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	: USD6,400~USD6,700/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	: USD6,400~USD6,700/MT CFR ASIAN PORTS
米国产バター(無塩 82%脂肪)価格	: USD6,300~USD6,600/MT CFR ASIAN PORTS

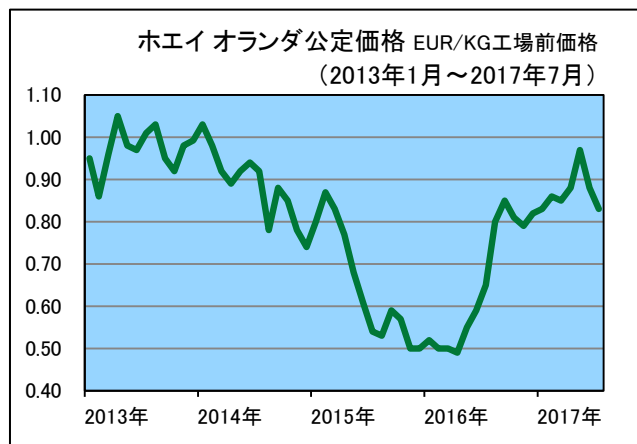


<小瀬村>

■ ホエイ情報

■ 米国産、欧州産ともに軟化傾向

米国産ホエイパウダーの相場は若干の弱含みにて推移している。米国の5月のホエイパウダー生産量は前年比0.5%増の3万7,600トン、2017年1月から5月の累計生産量も前年比2.2%増の18万7,800トンとなっている。5月のホエイパウダーの輸出量は前年比7%増の1万7,600トンで、4月に続き好調に推移している。チーズの生産量が順調に伸びていることから、ホエイパウダーの生産量も増加しているが、一方で、需要は落ち着き始めており、在庫も適正水準からやや重たいレベルとなっており、相場は引き続き若干の弱含み傾向とみられる。



欧州産ホエイパウダーは高値安定だったが、6月下旬あたりから需要が弱まっており、在庫水準も若干重たくなりつつある。欧州産ホエイパウダーの2017年1月～5月の輸出量は前年同期比6.8%増の24万3,756トンとなった。国別の輸出先の割合は中国が29.8%で1位、次いでインドネシアが15.4%、マレーシアが9.1%であった。

米国産 WPC-34 の相場は若干の弱含みにて推移している。米国内の脱脂粉乳相場が軟化傾向にあるため、一部規格条件の厳しい製品を除いて WPC-34 の需要も一時的に落ち込んでいる模様である。

米国の5月の WPC-34 の生産量は前年比1.0%減の6,700トン、2017年1月～5月の累計では前年同期比0.9%減の3万4,300トンとなっている。5月末の在庫数量は前年比1.0%減の1万1,200トンであったが、生産量、在庫水準ともに安定しており、供給面の問題もないものと考えられる。

<柿島>

■ カゼイン情報

■ 大きな動きは見られないカゼイン相場

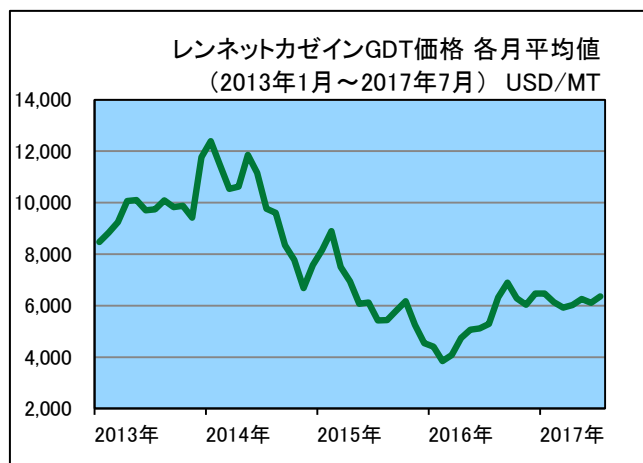
カゼイン相場は直近では大きな変動は見られない。

需要に関しては、既に各需要家は第3四半期積みの調達を終了しており、直近ではスポット取引はほとんど行われず、主要需要家は今後の動向を見守っている状況である。主要生乳生産地である NZ はシーズンオフにあり、また同じく生乳生産地である欧州は乳量が落ち始めた時期であることから、カゼインの生産は減少している。しかし、旺盛なバター需要を受けて副産物の脱脂乳は出ているため、結果として予想通りのカゼイン生産が行われている模様である。

今後は、NZ の新シーズン突入により乳量の増加が予想されることから、カゼイン生産も増加が見込まれる。しかし、現在高値で推移するバターの価格が下落した場合は、バターからチーズへ生産が移ることが考えられ、その場

レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年5月2日	USD 6,775
2017年5月16日	USD 6,259
2017年6月6日	USD 6,849
2017年6月20日	USD 6,104
2017年7月4日	USD 6,113
2017年7月18日	USD 6,358



合はカゼインの生産量が低下し、一転供給がタイトとなる恐れもある。

<作田>

■ 乳糖情報

■ 落ち着きを見せる欧州 米国産相場

欧州

欧州産乳糖相場は、横ばいで推移している。EU 介入在庫の影響で、バター・脱脂粉乳の組み合わせから利益率の高いチーズの生産ヘシフトしているため、チーズのプロダクトミックスである原料ホエイ及び乳糖の生産は安定している。需要面では、EU 域内の育児粉乳用途は好調を維持している一方で、域内、輸出向けの脱脂粉乳蛋白調整用途は、一段落といったところである。一部で第4四半期前半まで売り切れているメーカーもあるが、全体的にはタイト感は薄れてきており、需要と供給のバランスが取れた状態に近づいてきている。

今後については、秋冬の製菓需要が増加することが予想されるが、米国産乳糖相場が落ち着きを見せていることから、大幅な相場変動は考えにくい。

米国

米国産乳糖相場は弱含みで推移している。穀物飼料の安値推移が追い風となり生乳生産量は引き続き好調を維持している。5月 は前年同月比 1.8%増加した。チーズの生産量も前年同月比4%増となり、ホエイ、WPCの生産も順調に伸びている。特に蛋白含有量が高い、WPC80、WPIの生産が好調でホエイパーミイト及び乳糖の生産量も増加している。需要面では、国内需要が落ち着きを見せる一方で、季節要因によりオセアニアの脱脂粉乳蛋白調整用途が増え始めている。また、東南アジア向けの養豚飼料向け需要が伸びていることから、需要と供給のバランスは取れた状態にある。

第3四半期の価格交渉は、若干下げて着地したため、

国別乳糖輸入量:6月時点での累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	3,172	3,999	26%
フランス	750	961	28%
ドイツ	5,757	8,447	47%
カナダ	1,456	1,393	-4%
米国	22,825	23,004	0.8%
豪州	0	0	-
ニュージーランド	1,666	1,554	-7%
その他	559	977	75%
合計	36,185	40,335	11.5%

米国からの乳糖輸出量(2017年1月～5月)

1. 中国	26,255トン
2. 日本	18,997トン
3. メキシコ	17,334トン
4. ニュージーランド	14,933トン
5. インドネシア	7,823トン
6. インド	6,583トン
7. シンガポール	7,583トン
輸出量総計	143,054トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年5月)

乳糖生産量	43,100トン	前年比 1.8%増
月末在庫	57,561トン	前年比 1.1%減

各需要家は今後、相場が下がることを期待して、動向を見ている模様である。

今後については、好調な生乳生産を背景に乳糖生産も前年比で増加することが予想される。第4四半期は、米国内及び輸出向けの秋冬製菓用途の需要が伸長すると見込まれることから、需要と供給のバランスが取れた状態は続き、横ばいに推移するものと思われる。

<真野>

■ チーズ情報

■ 米国の長期的乳価の見込み

米国当局は、今後10年間で乳価が続伸すると見込んでいる。同局によると、各クラス全体の乳価は2017年に約39セント/リットルとなり、徐々に上昇し2027年には約42セント/リットルに達すると予想している。さらに、酪農家の乳価から飼料コストを差し引いた差益は、今後10年間で平均9.0セント以上になると予想している。乳価が下落する時期はあっても全体的な傾向としては上昇傾向にあると同局は説明している。背景には、同国での乳製品の消費量の増加と、世界的な乳製品消費の増加があると見られる。

■ 米国チーズのメキシコ向け輸出

米国からメキシコに向けたチーズの輸出が記録的に増加しており、5月の米国乳製品の輸出額は、前年同月比34%増の5億8,900万ドルとなった。その内メキシコ向けは71%増の1億5,200万ドルで、その他では中国向け48%増、カナダ向け29%増、日本向けは84%増となった。輸出量は前年同月比15%増の16万9,648トンで、内約30%がメキシコ向けであった。

■ オーストラリアのチーズ生産量増

オーストラリアでは引き続きチーズの生産量が増加している。Dairy Australiaによると、4月の脱脂粉乳の生産量は前年同月比43.5%減の7,900トン、バターは29.4%減の3,300トンであったのに対して、チーズは4.5%増の26,100トンであった。各品目の今シーズン(2016年7月～2017年4月)の累計生産量は以下の通りである。

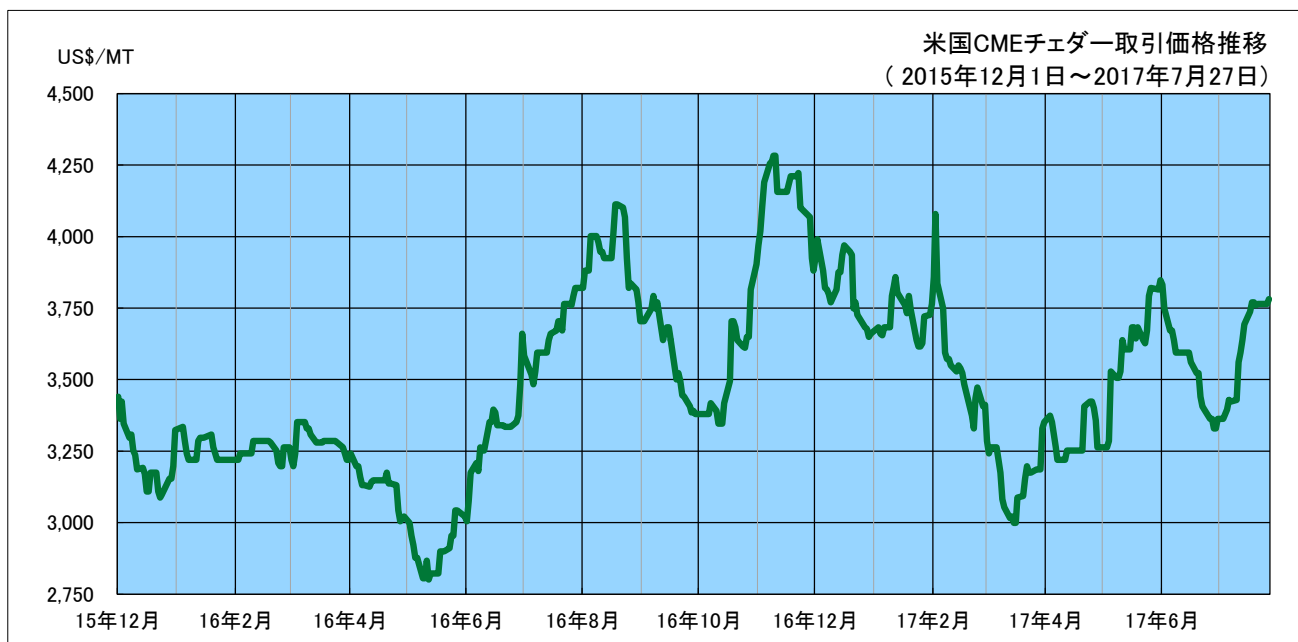
チーズ	277,300トン	(0.9%増)
脱脂粉乳	195,500トン	(15.5%減)
バター	57,200トン	(17.0%減)
全脂粉乳	51,600トン	(18.5%減)
ホエイ	42,400トン	(13.0%増)

■ アイルランドの酪農家数増加

2015年3月末にクォータ(生乳生産割当)制度が撤廃されて以降、アイルランドでは酪農家戸数が約600軒増加した。うち約半数の280戸がGlanbia社傘下のようだ。残りは主にLakeland社で100戸、次いでDairygold社88戸、Kerry社36戸、Arrivo社29戸、Arrabawn社28戸などである。また、同国の乳牛頭数は約12万頭増えたとされており、この10年間で40%増加したことになる。ちなみに現在、同国では初妊牛及び二回目の妊娠牛は一頭あたりEUR1,500以上、雌の仔牛はEUR1,000以上で取引されている。

米国CME(シカゴ)相場

2017年7月のCMEスポット相場は7月3日のUSD3,363/MTから開始となった。その後価格は堅調に推移し7月27日にはUSD3,782/MTを付けた。



<齊藤>

国内情報

猛暑で生乳生産量は大幅減 脱脂粉乳は依然逼迫感が残る

生乳生産

農林水産省が発表した6月の全国生乳生産量は61万4,466トンで前年同月比1.9%減となった。地域別では北海道が32万8,075トンで2.6%減、都府県は28万6,391トンで1.1%減となっている。

Jミルクが7月末に発表した需給見通しによると、2017年度の生乳生産量は、北海道ではほぼ前年度並み(388万トン、前年比99.6%)であるものの、都府県では前年度を下回り(335.1万トン、前年比97.1%)のため、全国では前年度を下回る723.2万トン、前年比98.4%の見通しであるとしている。

7月に入ってから猛暑の影響で、生乳生産量が大きく減少している。30℃を超える真夏日が続き、関東の一部地域では、6月まで前年並みを維持していた生乳生産が、7月上旬は前年比2%減まで落ち込む事態となった。速報値によると北海道の生乳生産は、7月上旬で前年比97.3%、7月中旬では96%と大きく落ち込んでいる。

今年の夏は全国的に平年よりも気温が高くなると予報もあることから、生産現場では、暑熱対策や飼養管理などの徹底が求められている。

バター

農林水産省が発表した6月のバター生産量は4,854トンで前年同月比10.0%減、在庫量は2万7,329トンで4.5%増となった。農畜産業振興機構(ALIC)の需給予測によると、8月のバターの生産量は、前年比11.8%減の4,700トンの見込みとしている。8月は引き合いが弱まるとみられることから、出回り量も8.5%減の5,300トンと前年を下回る予想である。

る。8月末在庫量は0.3%減の2万8,300トンと見込んでいる。

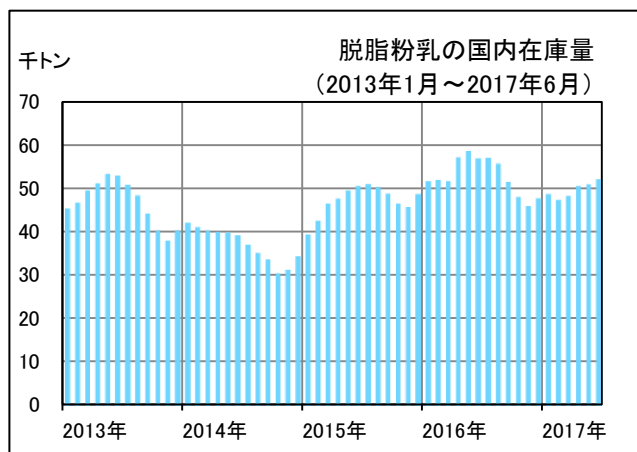
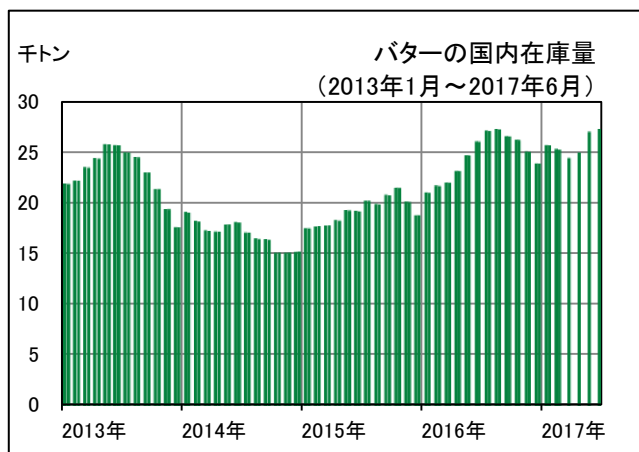
ALICは、7月20日バター-SBS入札 2,000トンを実施し、落札数量は688.1トンで、競争倍率は0.34倍であった。今年度4月～6月の過去三回の入札でも競争倍率は0.3倍を下回っており、7月の入札では競争倍率がやや上昇したが、輸入バターへの需要は依然低いことが伺える。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した6月の脱脂粉乳生産量9,452トンで前年同月比1.6%増、在庫量は5万2,017トンで8.4%減となった。ALICの需給予測によると、8月の脱脂粉乳の生産量は前年比9.0%減の9,000トンの見通しとなっている。出回り量は乳飲料や乳酸菌飲料の需要で増加した7月に続き、8月も1.7%増の1万1,400トンと前年超えが続くと予測している。8月末在庫量は1.3%減の5万4,900トンと見込んでいる。

ALICは、7月25日脱脂粉乳-SBS入札5,000トンを実施し、応札数量が1万3,159.4トンで競争倍率は2.63倍となった。輸入業務委託入札の落札平均価格は322.326円/kgで、売り渡し入札の落札平均価格は同603.363円。

6月の入札に続き、競争倍率が高く、脱脂粉乳への需要の高さが伺える。時期は未定であるが、今後4,000トンの入札が行われる予定となっている。国産脱脂粉乳の生産量は減少傾向にあり、今後の天候次第では減産に拍車がかかる可能性もあり、4,000トンの入札競争が厳しくなる可能性も予想される。



生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年6月	614	347	24	263	4
前年同月比	98.1%	99.1%	101.3%	96.8%	96.3%

2017年度、バター-需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,762	91.4%	16,043	101.9%	26,900	102.9%	4.6
第2四半期	12,900	89.7%	17,600	126.4%	24,700	92.9%	4.2
第3四半期	12,500	90.1%	22,800	92.7%	23,000	96.3%	3.9
第4四半期	17,600	103.6%	16,600	101.2%	29,200	119.3%	5.0
合計	59,762	94.0%	73,043	103.4%	29,200	119.3%	5.0

*在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017年度、脱脂粉乳の需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第2四半期	24,300	89.3%	36,200	98.1%	48,300	94.0%	3.9
第3四半期	26,800	89.9%	36,500	102.7%	46,600	97.8%	3.7
第4四半期	34,100	103.7%	40,000	113.2%	50,700	105.2%	4.3
合計	117,844	95.4%	149,343	105.9%	50,700	105.2%	4.3

※在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<帆秋>

■ アムステルダム駐在員情報

■ Arla Foods社 ドイツ女子陸上競技のスポンサーに

デンマークの乳業大手 Arla Foods 社は、ドイツで開催される Barmer Women's Run 及び Xletix Challenge という二つの陸上競技へ国を超えて協賛している。

Barmer Women's Run は、6月から夏場を通してドイツの各都市で開催される。6名の女性ランナーに Arla Skyr(スキル、スキア) VIP チームとして有名人と一緒に参加できるチャンスを与えている。また、Xletix Challenge はドイツで最も過酷とされる障害物競技であり、同社の別ブランド Arla Protein が公式スポンサーとなっている。同競技は、泥沼の多数ある最低 12 km に亘るコースを 25 個の障害物をクリアしながら進むもので夏に数か所で開催されている。有名選手に率いられた Arla Protein Xletix チームへ参加するチャンスを 12 人のアマチュアランナーに与えている。

同社のドイツ法人 Arla Food Germany 社の牛乳・ヨーグルト事業部門の役員である Elise Bijkerk 氏は、「Barmer Women's Run と Xletix Challenge は、自ら設定したゴールを目指して皆と一丸となって自己成長していく競技であり、わが社やわが社のヒット商品である Arla Skyr と Arla Protein にとても良くマッチしている。Arla Skyr には女性に自信を持ってもらえるように勇気付けたいという思いがこめられており、これは最速・最高を競うのではなく一緒に達成するという Barmer Woman's Run のコンセプトと一致している。チームで協力して泥沼などの障害物を乗り越えていく Xletix Challenge についても同様である。」としている。

因みに Skyr とは、アイスランド発祥の発酵乳製品で、1000 年以上前から食されていたというが、上記 Arla 社を含む複数社の参入により、この 10 年で北欧を中心に徐々に販売を伸ばしてきた。一般のヨーグルトに比べやや酸味が強く、さっぱりとした味、高たん白低脂肪(一般的には、たん白分:11~12%、脂肪分:0.5~1.5%程度)が特徴とされる。満腹感を得やすい手軽な食品として、その昔アイスランドでは、昼食としても食されていたという。

<阿部>

■ メルボルン駐在員情報

■ MGC社 工場設備売却の動き

MGC 社の 2017 年 7 月期の決算報告は 8 月に発表される予定であり、深刻な財政難の中で資産整理に関する計画が説明されるものと予想される。そのような中、7 月 24 日に MGC 社はプレスリリースにて 2017 年度の負債総額

は約4億8000万豪ドル(約422億円)に収まると下方修正した。上半期に発表された同年度の負債総額予想の約6億7700万豪ドル(約596億円)より改善しており、正しい方向へ進んでいる兆しと捉えられるものの金額の大きさから再建への道のりは非常に長いと感じざるを得ない。MGC社はフィナンシャルアドバイザーとしてドイツ銀行と契約したことを発表した。

同プレスリリースでは集乳量についての予想も発表しており、2018年度の年間集乳量は約230万トンになるということを発表した。2016年度は約350万トンあった集乳量が、2016年度には約280万トンに減少し、2017年度は230万トンに落ち込むと予想している。この2年間で約120万トン(約34%)の集乳量を失う計算だ。その背景には、今年度の支払い乳価が Fonterra、WCB、Bega などの競合他社の乳価に遠く及ばず、少しでも他社の乳価に近づけるべく改訂したものの、未だに豪州乳業会社の中で最低レベルとなっており同社を離れる酪農家が後を絶たないことが挙げられる。本予想では8月15日に同社との契約が終了する酪農家が他社に流れていくことを計算に入れた数値であると推測される。

2018年に閉鎖を発表している Kiewa 工場については、牛乳の“Kiewa Country”ブランドとその製造設備を地元の企業に売却することを発表した。同社としてはこれ以上 Fonterra、WCB、Bega、Parmalat など同業他社に生乳を奪われないために工場の売却だけは何としてでも避けてきた中で、売却を決断したものである。売却先は中小の乳業会社と思われるがまだ明らかにされていない。Kiewa Country ブランドの飲用乳製品には約5~10万トンの生乳が使用されていたと推測される。同工場は“Kiewa Country”の他にクリームチーズ製品を製造しており、この製造設備に関しては同社の別工場へ移管して製造は続ける予定でいる。また、同社は、年内に工場閉鎖を発表しているタスマニアの UHT 牛乳製造の Edith Creek 工場の売却先を探していることを発表している。同工場は製造設備を同社内の別工場へ移管すると予想されていたものの、現在は売却する方針へ転換している。売却候補はいくつも上がっているが売却が合意されるまでは公にされないとと思われる。また2010年に工場を閉鎖した Leitchville 工場は、NZ の OCD 社へのチーズ製造ライン売却が決定したと報道されている。タスマニアの Edith Creek 工場についても同社としては製造設備だけの売却で工場自体の売却は避けたいと考えていると思われる。タスマニアには粉乳製造の Smithton 工場があり集乳はそちらに集約したいと考えていると予測でき、工場を売却した場合は生乳の争奪戦が発生してしまう。しかしながら競合他社も新しい集乳地域を確保したいと考えているはずで、今回のケースは工場自体を売却する流れになると予想する関係者が多い。

一方、WCB(Saputo)社は今シーズンの最終乳価予想を AUD5.90/kg乳固形を目指し、状況によってはそれ以上を目指すことを発表した。また Fonterra 社については、7月28日に乳価を20セント上げることを発表しており、最終乳価を AUD5.50~5.80/kg乳固形とした。さらに該当の酪農家にはインセンティブとして AUD0.40/kg 乳固形を支払うことを発表しているため、最大 AUD5.90~6.20/kg 乳固形となる。これに対抗して WCB 社も今後乳価をさらに上げる可能性もある。また好調な Bega 社(Tatura 社)も生乳競争の激しい北部エリアで集乳量の確保が必要になっており、乳価を上げる可能性は高いと思われる。上述の通り深刻な財政難にある MGC 社は最終乳価を AUD5.20~5.20/kg乳固形としており、これ以上乳価を上げることは非常に難しい状況である。同社の生き残りのためには、同社の工場設備の売却、もしくは工場自体の売却によって出来る限りスリム化を図り、立て直しの機会を探るしか方法はないのかもしれない。

豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年5月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月~累計(前年同時期比)
NSW	84.7 (-6.8%)	1,033.8 (-5.5%)
Victoria	413.0 (-2.3%)	5,350.9 (-9.0%)
Queensland	31.9 (-2.4%)	385.6 (+1.1%)
South Australia	39.4 (-5.3%)	450.7 (-8.1%)
Western Australia	31.4 (-5.1%)	348.7 (-1.8%)
Tasmania	62.1 (+3.1%)	792.4 (-6.1%)
Australia	662.5 (-2.8%)	8,362.0 (-7.6%)

ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年5月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
東部	133.6 (0.0%)	1,856.5 (-4.5%)
北部	140.4 (-10.2%)	1,610.0 (-17.7%)
西部	139.1 (+4.7%)	1,884.4 (-4.9%)
ビクトリア州全体	413.0 (-2.3%)	5,350.9 (-9.0%)

<松本>

■ 米国駐在員情報

6月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると6月の主要23州の生乳生産量は767万2,600トンで前年同月比1.7%増となった。先月発表された5月の生乳生産量は前年同月比1.9%増の808万1,200トンへ上方修正された。主要23州における6月の一頭当たりの平均搾乳量は約880キロで前年同月を約5.9キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来6月単月の数字としては過去最高となった。主要23州における5月の平均乳牛頭数は873万頭と発表され、前年同月比83千頭、前月比では4千頭の増加となった。

6月の全米生乳生産量

2017年6月の全米生乳生産量は819万4,700トンで前年同月比1.8%増となった。また、全米の一頭当たりの平均搾乳量は約871キロで前年同月を約6.2キロ上回った。

6月の平均乳牛頭数は940万4千頭と発表され、前年同月比7万8千頭増、前月比では4千頭以上の増加となった。

2017年6月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,493,660トン	-2.10%	(-31,326トン)
ウィスコンシン州	1,154,522トン	0.70%	(-3,178トン)
ニューヨーク州	569,316トン	0.40%	(+2,270トン)
アイダホ州	573,856トン	1.90%	(+10,442トン)
テキサス州	461,718トン	15.00%	(+60,382トン)
ミシガン州	430,392トン	2.80%	(+11,804トン)
ペンシルバニア州	411,324トン	±0%	(±0トン)
ミネソタ州	373,188トン	1.40%	(+4,994トン)
ニューメキシコ州	315,984トン	9.80%	(+28,148トン)
ワシントン州	247,884トン	-1.30%	(-3,178トン)

5月の米国産乳製品の輸出量

5月の米国産NDM/SMPの輸出量は58,748トンで、前月比2.3%増となったが、メキシコ向けの輸出量が約4,540トン(約20%)増加していることが主な要因として挙げられる。年初に懸念されていた二国間の貿易摩擦とは裏腹に、米国の主要貿易相手国であるメキシコ向けのNDM/SMPの輸出量は2017年1月～4月累計で12万1,218トンとなり、

前年同期比約2万3,835トン(約25%)増となった。2017年1月～5月累計では前年同期比22%増の26万1,050トンとなった。

5月の米国産バターは前月比1.2%減の1,952トンとなった一方、輸入量は前月比11%増の3,973トンとなった。主な輸入元である欧州産バターの価格が値上がりする前に在庫を手当てしようとする米国内の輸入業者の動きも見られる。

5月の米国産チーズの輸出量は3万5,457トンで、前月比27.5%増、前年同月比48.3%増となり、この数字は2014年3月以来の最高水準となっている。このうちメキシコへの輸出量は約1万3,620トン近くとなり、単月の輸出量としては5年振りの最高水準となり、前月比、前年同月比ともに75%増となった。

5月の米国産ホエイパウダーの輸出量は前月比0.5%、前年同月比3.7%増の1万7,615トンとなった。2017年1月～5月累計でのホエイパウダー輸出量は既に8万2,231トンを超え、前年同期を23%上回っている。中国向け輸出が2017年1月～5月累計で前年同期比128%増の3万7,918トンと好調なことが主な要因である。

5月の米国産バター、脱脂粉乳、チーズの生産量

5月の米国産バターの生産量は季節的要因により減少し7万4,229トンとなり、前月比0.6%増、前年同月比1.5%減となった。5月の米国産NDM/SMPの生産量は合計9万9,426トンで前年同月比1%増となった。NDMの在庫量は12万8,164トンまで積み上がり、前年同月比約22%(2万2,700トン)増となった。5月の米国産チーズの生産量は47万6,700トンで前月比2.4%減、前年同月比4%増となった。

6月のチーズとバターの在庫量

6月末時点の米国産チーズの在庫量は、前月比1%減、前年同月比5.3%減の59万9,280トンとなり、2017年のチーズ在庫量のピークは4月であったと推測される。ちなみに2015年及び2016年のチーズ在庫量のピーク月はそれぞれ8月と7月であった。6月のチーズ在庫量は過去5年間の6月単月平均と比較すると大きく上回ってはいるものの減少の兆しも見せ始めている。

6月末時点のアメリカンタイプチーズの在庫量は前月比3.2%減、前年同月比7%増の36万7,740トンとなった。米国内のチーズ在庫量が縮小傾向にある要因が好調な輸出と旺盛な国内需要であった場合、直近では弱含みに推移してきた米国産チーズ価格が、今後上昇に転じる可能性も考えられる。

6月末時点での米国産バターの在庫量は前月比1.1%減、前年同月比5.5%減の14万740トンとなった。6月のバター在庫量は前年同月比減少しているが、2014年、2015年の同月比ならびに過去5年間の単月平均(12万2,126トン)を大きく上回っている。この統計数値は予想の範囲内で、相場への影響は少ないと考えられる。

米国乳業メーカー、rBST使用乳禁止の動き拡大

Hilmar Cheese社はカリフォルニアとテキサスにある同社チーズ工場で、2018年6月までにrBST(乳量増加ホルモン剤)使用乳の受け入れを廃止すると、7月26日に発表した。rBST不使用乳への切り換え期限は2018年6月としている。同社の発表以前にrBST使用乳の受入れ禁止をいち早く決断していたDarigold社、Agropur社、Associated Milk Producers Inc.(AMPI)社、Foremost Farms社及びGrassland Dairy Product社に今回Hilmar Cheese社が加わり、来年の中頃までには米国乳業メーカーにおいてrBST使用乳禁止の動きがさらに加速するものと思われる。2014年にAgropurの傘下となった旧Davisco社も2018年1月より同社の米国内の7工場にて受け入れる牛乳の全てをrBST不使用乳に切り替えることを発表している。

カナダの新乳価クラス7の導入による脱脂粉乳輸出量の増加について

カナダは国内の無脂乳固形の余剰を解消する目的で新たにクラス7乳価を設定した。クラス7は乳価の算出基準

となる無脂乳固形を国際粉乳相場の最低水準の価格とするというもので、これまでチーズの製造を目的に主に米国などがカナダへ輸出していた液状 MPC や UF 膜処理牛乳を実質的に締め出すこととなり、カナダへ製品輸出ができなくなった米国の中西部及び北東部の乳業メーカーは現在余乳処理の問題を抱えている。

2017年1月～5月のカナダの SMP の輸出量は1万9,924トンとなり、前年同期比237%増と大幅に増加した。同期間の輸出量は、2010年～2015年の年間の輸出量を超えている。輸出先は、米国の脱脂粉乳輸出先トップ4に含まれるメキシコ、フィリピン、インドネシアとなっている。

カナダは国内のバター需要を賄うためにバターの製造を行う必要があり、SMP の余剰在庫をより多く抱える状況となっている。FAS(海外農務局)は、同国内の無脂乳固形分の余剰在庫が2014年/2015年の水準である79,200トンから、2022年頃までに10万5,500トンにまで増加すると予想している。カナダ国内の需要は今後も変わらぬものと予想されるため、カナダ産 SMP の輸出量は今後も増加すると考えられる。

カナダ産 SMP の輸出量増加に加えて、欧州産も増加しており、5月の欧州産 SMP の輸出量は、過去10年間において単月ベースで最も高い水準の8万43トンとなった。その中でも特に、メキシコ向けは6,819トンとなり過去10年間の同国向け輸出量では単月で最も高い水準となった。2017年1月～5月の累計で欧州産 SMP の同国向け輸出量は前年同期比332%増の1万8,733トンと目を引く数値となっている。カナダ産、欧州産ともに同国向けに SMP の輸出量を増やしていることから米国との競争が激しくなることが予想される。

<佐藤>

■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	直近の乳価	
日本	¥97.18/㍓	¥94.26/kg※2	(2017年5月)
ドイツ	¥45.34/㍓	EUR33.83/100kg	(2017年5月)
オランダ	¥47.67/㍓	EUR35.57/100kg	(2017年4月)
アイルランド	¥42.43/㍓	EUR31.66/100kg	(2017年5月)
米国	¥41.25/㍓	USD16.50/100ポンド ^① (100ポンド=45.3592g)	(2017年4月)
豪州	¥37.43/㍓	AUD5.50/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)
NZ	¥43.32/㍓	NZD6.75/kg MS(乳固形あたり)	(2017/18年度)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

為替レート: EUR=¥130.00 / USD=¥110.00 / AUD=88.00 / NZD=83.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典:

- AGRA EUROPE 各誌
- Dairy Dairy Report
- Dairy Industry Newsletter
- 農畜産業振興機構“畜産の情報”
- AMS Dairy Market News
- 日刊酪農乳業速報
- Rice Dairy
- NZ Herald
- Stuff.co.nz
- 食品産業網
- Weeklytimes
- USDEC Export Trade Data
- Global Trade Information Service
- USDA's Dairy Market News
- Australian Financial Review
- 食品産業サイト
- 経済日報
- 東方ネット
- 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。